

せわやがトカラ情報

十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号
TEL 099-227-9771

南北160km 「心をつなぎ気概に満ちた」十島の教育

3月…前事を忘れざるは、後事の師なり
教育長 有村 孝一

「史記」秦始皇本紀の一文です。

以前に起こったことや行ったことを忘れなければ、これからの参考になるし、手本にもなり得るという意味です。私たちは、すべからく過去の経験から様々なことを学び、そのことを糧として、さらに次のステップに歩み出すという思考の連続で今日まで歩んできていると思います。

いよいよ平成28年度も締めくくりの時となりました。毎年この季節は別離の季節ということで、寂しい気分になるものです。先生方は、去りがたき思いにかられながら、新たな任地に思いをはせる時となりました。島での様々なことをこれからの糧としながら精進していただきたいと思うものです。



さて、今回、村全体で41名の先生方が転退職・異動することになりました。1年から5年の間、勤務していただきました。辞令交付式の時にも話しましたが、これまで先生方は大変厳しい自然条件の中で、それらをものともせず、島の児童・生徒たちのために、昼夜をいとわず尽力していただきました。先生方の努力のおかげで、児童・生徒たちものびのびと毎日を勉学に、運動にと励んでくれることが出来たと思います。

15の島立を余儀なくされる子どもたちにとって、頼りにするのは本土にいます先生方かもしれません。ここでいったんお別れはしますが、その絆はいつまでも続いていくものと思います。

また、今年度は、諏訪之瀬島分校と小宝島分校が本校となり、新たに校長が赴任いたしました。7島全部に校長がいるということで、雰囲気も変わったことだろうと思います。86年ぶりのことでした。

ところで、自然が厳しいとはいえ、その中でここ十島村にしかない素晴らしさをいろいろと発見したり、体験したことと思います。そして、辛い時先生方を励まし、勇気づけてくれたのは、島民の皆さんと子どもたちのあふれんばかりの笑顔ではなかったかと思ひます。

島の一員となり、地域の行事へも積極的に参加していただきました。また、十島村でしか味わえない事の一つに、通船作業がありました。ヘルメットもよく似合い、すっかり島の人になりきっている姿を見て頼もしさを感じることでした。

ここで体験したことほとんどが、おそらく、他では体験できないことばかりではないかと思ひます。逆に、ここでできたのですから、どこに行ってもやれます。そのような自信をもって赴任していただきたいと思ひます。

「まかれたところで 咲きなさい」という言葉があります。新たな子どもたちが、先生方をいまかいまかと待っています。その子どもたちに、思い出深いトカラの出来事を話していただければありがたいです。

これまで、十島村の教育の充実発展に御尽力いただいた先生方に心から感謝申し上げます。ますますの御活躍を祈念いたします。

祝 大きな2つの受賞！！



一つは、鹿児島県体力向上推進事業における「体力アップ！チャレンジかごしま」で、悪石島小学校が見事、学校賞をいただきました。県下で8校が受賞しましたが、その中の1校なのです。「チャレンジかごしま」とは、体力テストの結果を受けて、学校が重点種目を決定し、全校的に取り組むのです。また、各自が自分の課題を確認して、ひとり一人がその課題解決に向けて体力向上に取り組むのです。学校賞は、まさに学校とひとり一人の努力の証です。本当におめでとうございませう。さらに体力を向上させ、健康な体を作っていくことを願っています。

もう一つの賞は、南日本作文コンクールで諏訪之瀬島小学校が「椋鳩十賞」を受賞したこと。この賞は「野性味あふれるユニークな作品が目立つ小規模校に贈られるものです。これは、ただ学校から多くの作文が出されただけでなく、作品の内容が評価されたからこそ、いただいた賞です。子どもたちの頑張りに、



心からおめでとうの拍手を送ります。

平成28年度は、十島村の子どもたちの県レベルの活躍が目立ちました。平成29年度も子どもたちが大活躍することも期待しています。



シリーズ この島に暮らして「平島に来て」 平島小学校 3年 上田 路竺

ぼくの名前は、上田路竺です。すしが大好きで、おすしやさんで、15皿食べたことがあります。1年生の11月に名古屋から来ました。

平島には、大きなガジュマルの木がたくさんあります。何十年もかけて大きくなったのがすごいと思います。また、夜の星がとてもきれいです。特に、ヘリポートで見る星空がきれいです。流れ星が見えるときがあります。



学校には、小学生4人、中学生1人しかいませんが、毎日楽しく過ごしています。毎朝、タイラの時間があります。水曜日は、とぶ日です。この前、小中学生と校長先生と教頭先生と他の先生たちと長なわでハの字とびをしました。すると、200回とべました。とてもうれしかったです。

ぼくは、走るのが好きです。運動会もじきゅう走大会もがんばりました。一番楽しかったのが、トカラマラソンです。たくさんの人が走るのを見てるとワクワクしました。かそうしている人もいて、とてもおもしろかったです。

ぼくが、中学生になったら、全島走ってみたいです。これからも、元気にすごして体力づくりをしていきたいです。



掃 南日本新聞「ひろば欄」H29.3.3掲載 「おすすめのそうじ法」 宝島小学校 5年 寺田 碧海

心もきれいになる掃除の方法を知っていますか。私は、そんなそうじの方法を三つおすすめします。

一つ目は、かぜや体調不良の原因となるホコリやカビを舞い上げずにそうじする方法です。まず新聞紙をちぎって丸め、水につけて水分をふくませます。次にちぎった新聞紙を床に散らします。そして、ほうきで、水分を含んだ新聞紙がホコリなどをすいとってくれます。

二つ目は、物を長持ちさせるそうじの方法です。エ



アコンのフィルターや照明、テレビのうらなど細かい所を綿ぼうやハンディモップなどでそうじします。

三つ目は、整理・整頓です。よく使う物を机の正面の所にならべて、遊び道具は視界に入らない引き出しに入れます。なぜなら、遊ぶ物を見える所に置くと、集中できなかつたり、ついさわってしまったりするからです。

見た目をきれいにするだけでなく、使いやすさも考えて整理・整頓することが大切です。

十島村の小・中学校からのメッセージ 宝島中学校 教諭 尾家 一徳

宝島中学校への赴任が命ぜられ、はや一年が過ぎようとしています。私はこれまでの教職員としての11年間、大規模校と中規模校を経験して参りました。その中で、宝島中学校でのこの1年間で、今までにない経験を積むことができました。

赴任当初は、生活する上で、身の回りのことを自分でしなければならず、四苦八苦した毎日を送っていました。そんな中、ガスを取り替えてもらったり、重たい家具を運んでもらったりなど、自分や家族だけではどうにもできないたくさんの方々に手伝っていただき、「ありがとうございます。」という言葉が毎日使っていました。私が以前赴任した学校で、先輩の先生から『ありがとう』を1000回言うとうれしくなる。」という話を聞いたことがあり、その指導が好きで日頃の学級経営の中で、「ありがとう。」という言葉がたくさん使いたまうと指導してきました。生徒たちから、「どう幸せになるの？」と質問されたこともありますが、なかなか言葉で言い表せませんでした。ただ、この1年間でその「幸せ」の意味が分かったような気がします。

私は、この1年間、中学校3年生1名の担任を務めてきました。時には厳しく、時にはともに悩み、励まし、指導してきました。その生徒がこの3月には、島を離れ、高校へと進学していきます。振り返ってみると、普段からその生徒の笑顔に元気をもらい、知らず知らずのうちに、私が支えてもらっていたのだという気持ちが湧いてきました。大規模校でも中規模校でも体験したことのない感覚でした。こんな経験ができるのも十島村ならではの経験だと思います。今度3月に行われる最後の学活では、「ありがとう。」という言葉で締めくくりたいと思っています。

「教職員仲間であるあなた」への 私からのメッセージ

十島村で過ごす1年間は、教職員の自分たちにとって約38年間の1年間かもしれませんが、子どもたちにとってはかけがえのない1年です。極小規模校の良さを生かし、じっくり子どもたちの成長を支えていってください。